

第4回第2期京都府教育振興プラン改定に係る検討会議概要

- 1 日 時 令和8年8月12日（水）14時00分～15時30分
- 2 場 所 京都府庁福利厚生センター 第2・3会議室
（オンラインとのハイブリッド）
- 3 出席者 委 員 青山委員、丹羽委員、松本委員、村田委員
（欠席：佐藤委員、中山委員、原委員）
府教委 前川教育長、大路教育次長、山下教育監、仲井管理部長、相馬指導部長、
各課（室）長、各地方機関・教育機関の長 他
- 4 概 要 開会あいさつ
（議事）推進方策3、推進方策5、推進方策6に係る意見交換

＝＝詳細＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

■教育長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

プランの検討よろしく願いいたします。

本日は推進方策の3「健やかな身体の育成」、5「学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進」、6「文化振興と文化財の保存・継承・活用」について御意見を頂戴したいと思っております。

御存じのように、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきております。従いまして、社会や家庭の役割というのは、改めて見直さなければなりませんし、インターネットがこれだけ普及し、子どもたちの生活の中で大きな時間をとる中で、心身の健康に向けてどのようなことが必要かということも改めて考えなければならないというふうに思っています。

また、京都は世界に誇る文化財がたくさんございますけども、保存活用という視点もそうですけども、やはりこういうものに接することによって、あるいは知ることによって、京都に対するこの昔の思いというのを醸成されるでしょうし、様々な視点で、この3点について、本日御意見を頂戴できればというふうに考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

■【議事】推進方策3、推進方策5、推進方策6に係る意見交換について

○府教委事務局から推進方策3「健やかな身体の育成」に係る説明

〈意見交換〉

委員

- ・身体の健康については、競技力向上やアスリート育成のみを目指すのではなく、生涯にわたる運動習慣をどのように形成していくかという視点が重要である。運動習慣や生活習慣は、健康維持だけでなく、将来働くことや地域で生活することにも関わる重要な基盤である。
- ・デジタル化の進展については、単に運動不足の原因として捉えるのではなく、端末等を活用して生活習慣や健康状態を記録し、自らの健康を把握・管理する力を育成することも重要である。子ども自身がセルフマネジメントする視点を育む必要がある。
- ・運動習慣の形成に当たっては、競技スポーツだけでなく、低体力の子どもや運動に苦手意識を持つ子どもも参加しやすい軽運動やニュースポーツなど、多様な選択肢を用意することが重要である。
- ・子どもたちが継続的に体を動かすためには場所や機会の確保も重要であり、学校施設や体育館等を活用した活動機会の提供や居場所づくりの視点も必要である。長期休業期間中の施設活用等についても検討の余地がある。
- ・部活動の地域展開については、運動部だけでなく文化部も含め、より多くの子どもが参加しやすい環境づくりにつなげていくことが重要である。

委員

- ・デジタル化の進展に伴い、睡眠不足や運動不足、メンタルヘルスへの影響なども懸念されることから、自ら健康状態を整える力を育てていくことが重要である。特に、セルフマネジメントの力を身に付けることが今後ますます重要である。
- ・部活動については、運動部だけではなく文化部も含めて捉える必要があり、一人一人の興味や関心に応じて活動を選択できる環境づくりが重要である。
- ・スポーツの在り方については、「する」だけでなく、「見る」「ささえる」「知る」といった多様な関わり方があることを子どもたちに伝えていくことも必要である。
- ・けが予防やストレッチなど、健康的に運動を継続するための基礎的な知識を身に付けることも重要であり、生涯を通じてスポーツに親しむための土台づくりにつながる。
- ・トップアスリートの育成に加え、すべての子どもが生涯にわたってスポーツや文化活動に親しめる環境づくりを重視する必要がある。

委員

- ・部活動の地域展開については、運動部だけでなく文化部にとっても意義のある取組であり、学校にない活動への参加機会が広がるなど、子どもたちの選択肢を増やすことにつながる。
- ・「ゆる部活」のように気軽に参加できる活動を充実させることにより、スポーツや文化活動に苦手意識を持つ子どもも参加しやすくなる。
- ・地域展開については、市町村の枠を越えた参加が可能となるなど、子どものニーズに応じた柔軟な仕組みづくりが望ましい。
- ・体育の授業におけるICT活用について、自らの動きを動画で振り返りながら課題を把握する学習は効果的であり、デジタル技術を活用した学びをさらに進めていくことも重要である。
- ・生涯にわたり健康な生活を送るためには、子どもの頃から運動習慣や健康的な生活習慣

を身に付けることが重要である。

委員

- ・中学校部活動の地域展開については、地域ごとの実情や生徒数の状況を踏まえながら進めていく必要がある。特に北部地域では生徒数減少への対応が進められており、一律の制度設計は難しい。
- ・競技スポーツだけでなく、健康づくりや趣味として体を動かす活動など、多様な活動機会を保障していく視点も重要である。
- ・デジタル機器や動画視聴時間の増加については、学習時間や運動時間との関係も含めて考える必要があり、体力面への影響についても丁寧に情報発信していく必要がある。
- ・体力向上や運動習慣の形成に当たっては、子どもたちを取り巻く生活環境の変化を踏まえながら、保護者や子どもへの啓発を進めていくことが重要である。

○府教委事務局から推進方策5「学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進」に係る説明

〈意見交換〉

委員

- ・学校施設については、授業時間中だけでなく、放課後や長期休業期間なども含めて地域へ開放し、子どもたちの学びや居場所づくりに活用していくことも考えられる。学校施設を地域社会の中で有効に活用する視点も重要である。
- ・大学図書館では外部委託等を活用しながら地域利用が進められている事例もあり、学校施設についても教育活動に支障のない範囲で地域利用を進める方策を検討する必要がある。学校施設の活用は、防災や地域コミュニティの形成にも意義がある。
- ・家庭環境の困難さは再生産される側面があることを前提に、困難を抱える家庭や子どもへの支援を考えていく必要がある。
- ・フリースクールや居場所支援については、市町村や学区による制約にとらわれず、柔軟に利用できる仕組みづくりが必要である。
- ・地域間交流や学校間交流について、異なる地域の子どもたちが互いの地域の特色や魅力を学び合う機会を設けることは有効である。
- ・京都府内の学校や教育委員会、自治体が相互に連携し、それぞれの取組や教育資源を共有することによって、教育活動の活性化や地域理解の促進につながる。

委員

- ・家庭教育支援については、家庭ごとの価値観や状況が多様化している中で、それぞれの家庭に応じた支援の在り方を考えていく必要がある。
- ・AI技術を活用した家庭教育支援や保護者相談の可能性について検討することも有効である。
- ・社会教育や生涯学習については、学習機会の整備だけでなく、学び続けることの意義や必要性を伝え続けることが重要である。
- ・図書館や博物館、大学等をネットワーク化し、府民が活用しやすい仕組みづくりを進めることも有効である。

委員

- ・PTA 活動については課題もあるが、保護者同士や地域とのつながりを形成する重要な役割を果たしている。
- ・保護者自身が地域の歴史や文化について学び、その姿を子どもたちに見せることも大切である。
- ・地域行事や町内会活動は、地域とのつながりを実感できる貴重な機会であり、その意義を伝えていくことが重要である。
- ・学校、家庭、地域が連携しながら地域資源を活用していくことは、地域理解や防犯・見守り活動の充実にもつながる。
- ・移住者と地域住民が交流し、多様な人々が関わることで地域が活性化する可能性がある。

委員

- ・大学や企業等との連携については、探究的な学びやキャリア教育を推進する上で重要な役割を果たしており、今後さらに充実させていく必要がある。
- ・主体的に課題を発見し解決していく力や、起業家精神の育成につなげていくことが重要である。
- ・保護者に対して、探究的な学びやこれからの時代に求められる資質・能力について理解を深めてもらう取組が必要である。
- ・SNS や動画視聴等の影響については家庭との関わりの中で考える必要があり、保護者への啓発も重要である。

○府教委事務局から推進方策 6 「文化振興と文化財の保存・継承・活用」に係る説明

〈意見交換〉

委員

- ・京都の文化や伝統については、過去の歴史や文化を学ぶだけではなく、それらをどのように未来へ継承していくかという視点も重要である。文化財や伝統文化を単なる保存対象としてではなく、次世代へ引き継ぐ資産として捉える必要がある。
- ・京都には有名な文化財だけでなく、近代化の過程で生まれた様々な歴史や地域資源が残されていることから、地域に残る身近な歴史や文化に目を向けることも大切である。
- ・文化や歴史を学ぶことは、地域への愛着や誇りを育むことにもつながることから、子どもたちが京都の魅力を実感できる学びを充実させる必要がある。
- ・神社仏閣や和菓子など京都ならではの文化資源を題材としながら、その背景にある歴史や地域との関わりを学ぶことは、子どもたちの関心や理解を深めることにつながる。

委員

- ・文化や伝統というと長い歴史を持つ文化財や伝統産業をイメージしがちであるが、地域の日常の中にある文化やカルチャーにも目を向ける必要がある。
- ・伝統文化については、昔の姿をそのまま保存するだけでなく、時代に合わせて変化しながら継承されていることにも着目すべきであり、若い世代が新たな発想で地域文化を発展させている事例にも目を向ける必要がある。
- ・地域で活躍する職人や事業者、文化活動に取り組む人々との交流や体験活動を通じて、地域の魅力や文化の価値を学ぶ機会を充実させることが重要である。

- ・移住者は地域の魅力を外からの視点で見つめ直している存在でもあり、子どもたちが交流することで、自分たちの地域を新たな視点で捉える機会につながる。
- ・学校間交流や地域間交流について、オンラインも活用しながら自分が住んでいる地域の文化や特色を発信し合う取組は、子どもたちの視野や想像力を広げることにもつながる。
- ・各地域の特徴的な取組や実践を共有する仕組みを充実させることで、教育活動や地域活動の活性化につながる。

委員

- ・文化部活動についても地域展開の視点が重要であり、学校単独では活動が難しい地域においても、広域的な連携によって活動機会を確保していく必要がある。
- ・神社仏閣等を舞台とした文化イベントや地域の文化活動は、子どもたちが地域文化に興味・関心を持つきっかけとなり、文化財や地域の歴史を学ぶ機会にもつながる。
- ・移住者と地域住民が協力して地域行事や活動を行っている事例は、多様な人々が交流することによって地域に新しい活力を生み出している。子どもたちにとっても多様な価値観に触れる機会となる。
- ・地域文化を継承していくためには、地域住民だけでなく移住者や新たな担い手も含め、多様な人々が関わりながら次世代へつないでいくことが重要である。

委員

- ・京都の文化や伝統に関する学習は丁寧に進められているが、今後は遠隔教育やデジタル教材も活用しながら、より多くの子どもたちが学べる環境を整備していく必要がある。
- ・特に北部地域では、本物の文化財や芸術に触れる機会に地域差があることから、オンライン技術等を活用しながら格差を縮小しつつ、可能な限り本物に触れる体験を保障していくことが重要である。
- ・文化財行政については保存だけでなく活用の視点も重視する必要がある、文化財を守るためにも教育、観光、地域振興など関係部局と連携した取組を進めていく必要がある。
- ・文化財の保存と活用を両立させながら、子どもたちが地域の歴史や文化に継続的に触れる機会を充実させることが重要である。